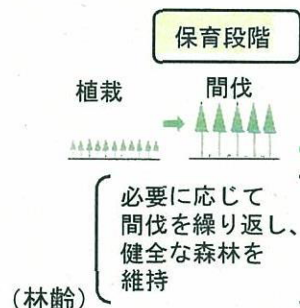
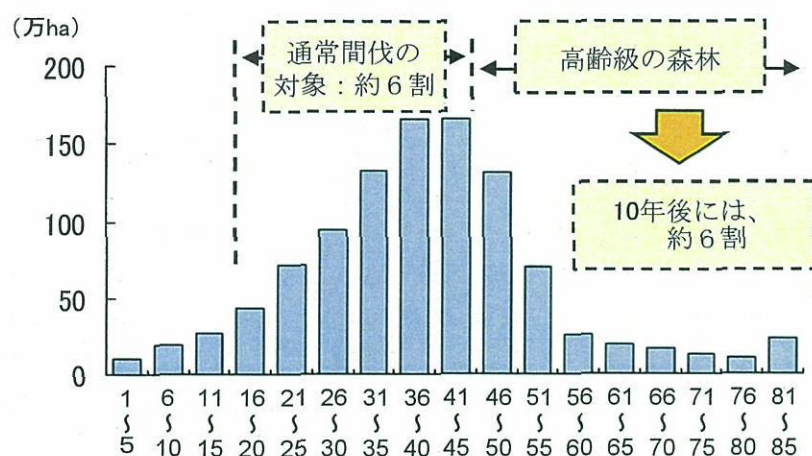


② 人工林資源の成熟化

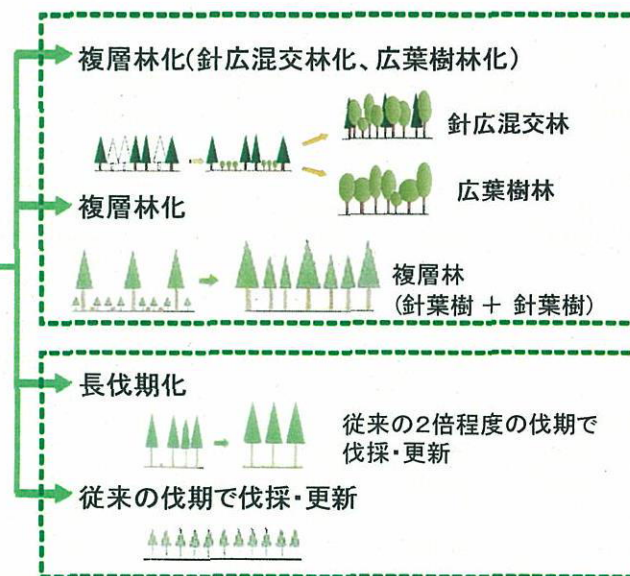
1. 森林・林業を取り巻く情勢の変化

- 我が国の人工林資源は、その多くが未だ間伐等の施業が必要な育成段階にある一方で、高齢級の森林が急増しつつあり、このまま推移した場合、10年後には人工林の約6割を占めると見込まれている。
- これらの高齢級化しつつある人工林は、引き続き適切な施業を行うことにより資源として本格的な利用が可能となる時期を迎えるとともに、多様化する森林に対する国民のニーズを踏まえ、針広混交林化・広葉樹林化・長伐期化など、多様な森林整備を推進する上での分岐点にある。
- 人工林資源の成熟に伴い、植付け、下刈り等の労働集約的な造林・保育作業が減少する一方、利用間伐や主伐等が増加することが見込まれ、今後は、生産工程の管理を行いながらチームで効率的に作業を行う知識集約的な能力が必要となる。

人工林資源の成熟化



多様な森林づくりの方法



今が多様な森林づくりを進めていくための分岐点